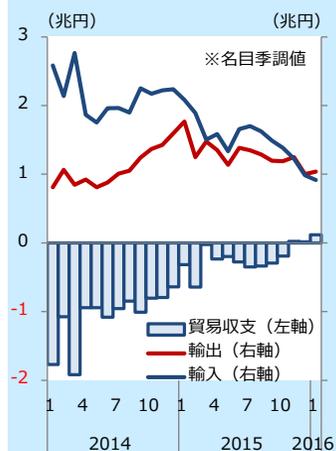


日本：貿易統計（16年1月）

一輸出入ともに大幅減、資源安と春節要因が背景

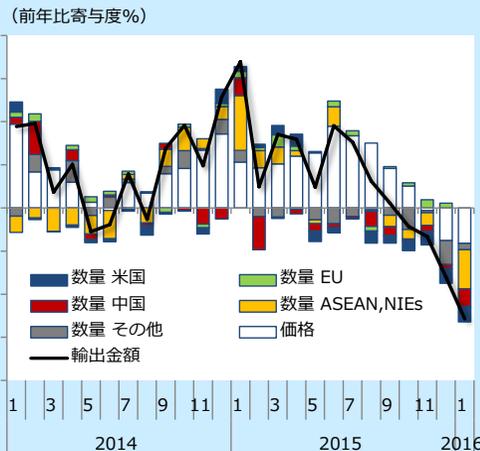
MRI Daily Economic Points
February 18, 2016

貿易収支



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

輸出額の寄与度分解

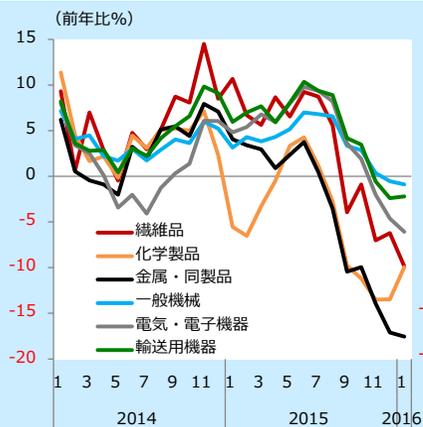


評価ポイント

16年1月の結果

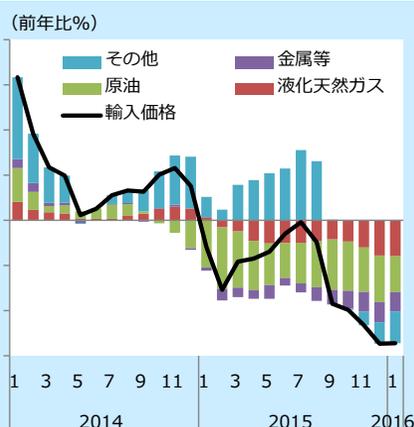
- 16年1月の貿易統計は、輸出が前年比▲12.9%と4ヶ月連続で減少。輸入は同▲18.0%と13ヶ月連続の減少。貿易収支は▲6459億円と前年(▲1兆1738億円)から赤字幅がほぼ半減。季調値では+1194億円と3ヶ月連続の黒字となり前月(+153億円)から黒字幅が拡大。
- 輸出数量は同▲9.1%と前月(▲4.4%)から減少幅が拡大した。新興国経済の減速に加え、アジア各国では春節が昨年より早まったことで(2月下旬→2月上旬)、1月の日本からの輸出を手控えた影響もあるとみられ、アジア向け輸出数量が大きく落ち込んでいる。その他、米国向けは、自動車輸出は引き続き堅調だが、投資の減少などを背景に一般機械の輸出が低迷している。
- 輸出価格も同▲4.1%と3ヶ月連続で低下。国際的な資源価格の低迷などを背景に、金属や化学製品を中心に低下している影響が大きい。アジア向け輸出は欧米向けに比べ、これら素材の占める比率が高いことから、輸出金額の下振れ要因となっている。
- 輸出の減少にも関わらず、貿易収支が改善した背景には、輸出を上回る輸入の減少がある。国内需要の弱さによる輸入数量の減少(同▲5.1%)に加え、資源安などにより輸入価格が同▲13.6%と大幅に低下している影響が大きい。

品目別輸出価格



資料：財務省「貿易統計」日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

輸入価格



基調判断と今後の流れ

- 輸出の先行きは、米国経済の成長持続と欧州経済の緩やかな回復がプラス材料となるものの、中国経済や資源国経済の減速が重石となることから、輸出全体としては緩慢なペースでの回復にとどまるであろう。
- 世界の金融市場ではリスク回避的な動きが加速している。原油安の恩恵が大きいはずの先進国経済にも株安やマインドの悪化を通じて影を落とし始めており、米国経済の先行き懸念の強まりや新興国での強い信用収縮が、非資源国も含めた成長下振れと輸出下押しにつながるリスクには注意が必要。